

# Cente Technical Information

発行番号	101-0087	Rev	第1版	発行日	2014/01/22
題名	fwriteの第2引数sizeに1以外を指定すると書き込みができない不具合について (メタデータ保護機能使用時)				
情報分類	障害情報				
適用製品	・Cente FileSystem Ver6.10				
影響API	fwrite				
関連資料	なし				

## 【現象】

以下の条件でメタデータ保護機能を使用した場合、fwriteで書き込みが行われませんが、fwriteの戻り値は正しい為、書き込みが成功したように見えてしまいます。しかし、ファイルの情報を取得すると書き込む前のサイズのままとなる場合があります。

【発生条件】(本不具合は以下の条件がそろった時に発生します)

1) fwriteの第2引数 size に 1 以外を指定して書き込みをした時。

例 : size = 133120; n = 1; とした fwrite( buf, size, n, fp );

これはfs\_cfg.hのメタデータ保護処理データサイズFS\_DATA\_SZ=131072と設定した場合にfwriteの第2引数(size)が FS\_DATA\_SZ < size の関係になった時。

2) fs\_cfg.h で#define FS\_JOURNAL 1 にしメタデータ保護機能を有効でビルドした時。

3) ini\_journal()でメディアにメタデータ保護管理ファイルを作成した時。

## 【原因】

メタデータ保護機能を有効にした場合のfwriteにおいてDT\_fwrite\_loop()で第2引数(size)を使ってDT\_fwrite\_sub()へ渡す第3引数(n)の算出計算に誤りがあり、結果としてn=0となっていた為、DT\_fwrite\_sub()は書き込みを行わない状態となっていました。

## 【回避方法】

### ■運用での回避方法

fwriteでの書き込みにおいて総容量len = 第2引数(size) × 第3引数(n) になります。fwriteの第2引数 sizeに 1 を指定し、第3引数 n に総容量 len を指定して運用ください。尚、このような運用に変更しても内部的には分割処理されるので速度差などに相違はありません。

### ■プログラム修正による回避方法

修正方法につきましては、弊社サポートまでお問い合わせ下さい。

以上